

イタリア語話者のための会話教材における発音表示

小林 ミナ (早稲田大学)
藤井 清美 (金沢工業大学)
柳田 直美 (一橋大学)

【目的】

イタリア語を事例に母語ごとのローマ字による発音表記を開発する。

【問題の背景】

音声コミュニケーションの1つである会話教育では、音声だけを媒体とした学習が可能である。しかし、理解や記憶のために何らかの表記が必要になることがある。

ただし、そこに日本語の正書法が介在する必要はない。アルファベットを用いる言語の母語話者であれば、ローマ字表記を用いることは、有効な手段の1つになる。

そのローマ字表記は、学習者にとって、日本語を「音として理解し、産出する」ことに役立つものでなければならぬ。

また、学習者の母語を考慮して、母語ごとに開発される必要がある。

【調査の概要】

目的①日本語を「音として理解、再生すること」を目的とするローマ字表記が母語によって異なるかどうかを明らかにする。

目的②母語を配慮したローマ字表記を作成する際の留意点を明らかにする。

協力者

イタリア語母語話者1名（日本語レベルは上級）。

方法

12の日本語表現★を提示し、「日本語の知識をまったく持たないイタリア語の母語話者が、イタリア語の感覚で発音したら日本語に聞こえるローマ字表記を作成してほしい」と依頼。

→〈表記データ〉

「なぜそのように表記したのか」「表記にあたって難しかったところはどこか」を語ってもらった。

→〈プロトコルデータ〉

【結果】

〈表記データ〉★

- [1] すみません、こっつて無料のWifi ありますか
Sumi-ma-sen kokottè muriòo no Wifi arimaskà?
- [2] 別々でお願いします。
Betsu betsu de onegai shimàs
- [3] あの一、これ使えますか。
Anoo core tsukàe-maskà?
- [4] 一括で。
Ikkatsu de.
- [5] これ温めてもらえますか。
Korè, àtata-metè moràe-maskà?
- [6] 雨が降らなくて良かったですね。
Ame ga fura-nakte yo-katta des ne.
- [7] みんな同じ格好だから、子どもがどこにいるかわからないですよ。
Minna onagi kakkòo dakarà, kodomo ga doko ni iru ka uàkara-nai des yo ne
- [8] ご質問ありがとうございます。
goshitsu-mon arigatòo gozai-mas
- [9] お答えになっていますでしょうか。
Oko-tàe ni natte imàs deshòo ka
- [10] ありがとうございます。今後の課題とさせていただきます。
Arigatòo gozài-mas. Kongo no kadai to sasète itadàki-mas.
- [11] 見た、見た。
Mita mita.
- [12] いま記録更新中なんですよ。
Ima, kiròk kòoshin-chùu nan deshò.

注目すべき点

母音の無声化

shimàs [2]

拗音

muriòo [1]

半母音ワ

uàkara-nai [7]

アクセントの付加

Mita mità [11]

【考察】

■ 左記の注目すべき点は、イタリア語の音価と照らし合わせても、きわめて妥当である。

■ アクセントの付加などによって、プロソディレベルまで反映できる可能性がある。

■ 英語話者に対する調査結果（小林・藤井・柳田 2014）とまったく異なるローマ字表記が得られた。たとえば

[10] ʔàhlee-ʔah-ʔòh-gòh-zai-ee-mahs.
Kòhng-gòh noh kah-dye toh sah-she-tey iy-tah dah-kee-mahs

【今後の課題】

■ 異なる体系のローマ字表記と母語話者（日本語ゼロ）を組み合わせた、定量的な発音&聴取実験。

■ それぞれのローマ字表記のさらなる精緻化。